

# 愛知県感染症情報

AICHI Infectious Diseases Weekly Report

2016年32週 (8月2週 8/8~8/14)

2016年7月報

愛知県感染症情報センター(愛知県衛生研究所内)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

E-mail: [eiseiken@pref.aichi.lg.jp](mailto:eiseiken@pref.aichi.lg.jp)

連絡先: 052-910-5619 (企画情報部)

## 今週の内容

### トピックス

流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎、結核、腸管出血性大腸菌感染症、蚊媒介感染症に関する注意喚起  
病原体検出情報  
定点医療機関コメント  
感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、マイコプラズマ感染症、流行性耳下腺炎、手足口病等

全数把握感染症発生状況 ( )内は件数。

結核(30)、腸管出血性大腸菌感染症(7)、E型肝炎(1)、チクングニア熱(1)、レジオネラ症(1)、カルパネム耐性腸内細菌科細菌感染症(1)、急性脳炎(1)、梅毒(6)

2016年7月報

定点把握感染症報告数(保健所別、年齢別)

「グラフ総覧」は <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>

## トピックス

### 流行性耳下腺炎(図1)

流行性耳下腺炎は、ムンプス、おたふくかぜとも呼ばれ、最も多い合併症として髄膜炎があり、学校保健安全法(第2種感染症)で出席停止期間が定められています。

32週の定点当たり報告数は0.75、31週159人 32週136人(0.86倍)です。

【参考ページ】<注目すべき感染症>流行性耳下腺炎(感染症発生動向調査週報/国立感染症研究所感染症疫学センター)  
<http://www0.nih.go.jp/niid/idsc/idwr/IDWR2016/idwr2016-23.pdf>

### 流行性角結膜炎

32週の定点当たり報告数は0.74、31週35人 32週26人です。

### 結核(図2)

2016年32週までの累積報告数は、8月17日現在1,131件(うち無症状病原体保有者は301件)です。

2015年32週までの累積報告数は1,041件(同293件)、2015年総計は1,683件(同463件)で、2014年総計1,867件(同529件)から184件減少しました。

### 腸管出血性大腸菌感染症(表)

愛知県の2016年報告数(診断週別)は、8月17日現在83件(O157 65件、O26 12件、O103 2件、型不明4件)、うち溶血性尿毒症症候群(HUS)発症例は5件です。

2015年の同時期(1~32週)報告数は53件、年間報告総数は98件(うちHUS発症例2件)でした。

【参考ページ】腸管出血性大腸菌

[http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/eaggec.html#2\\_4](http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/eaggec.html#2_4)

腸管出血性大腸菌感染症とは(国立感染症研究所)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansenohanashi/439-ehcc-intro.html>

### 蚊媒介感染症に関する注意喚起について

【参考ページ】

ジカウイルス感染症に関する情報提供について(厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Keinkoukyoku/0000133080.pdf>

デング出血熱患者(輸入症例)死亡例の発生について(厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000131052.html>

デング熱等の蚊媒介感染症に関する注意喚起について(厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Keinkoukyoku/0000131097.pdf>

ブタの日本脳炎抗体保有状況 - 2016年速報第3報 - (国立感染症研究所)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/id/2075-disease-based/na/je/idsc/yosoku/sokuhou/6631-je-yosoku-rapid2016-3.html>

注意すべき蚊による感染症

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/mosquito.html>

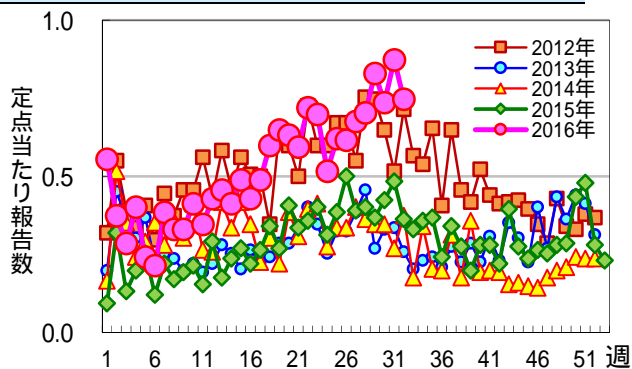


図1 流行性耳下腺炎

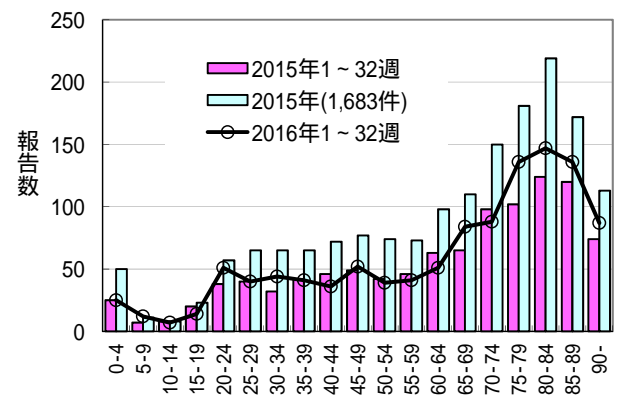


図2 結核の年齢階級別報告数

(愛知県、診断週集計、無症状病原体保有者含む)

表 腸管出血性大腸菌感染症のO血清型別報告数

(愛知県、2016年は8月17日現在)

O血清型	VT	2014年	2015年	2016年
O157		89 (5)	73	65 (2)
再掲	VT1(+)/VT2(+)	50 (3)	38	26
	VT1(+)	13	8	6
	VT2(+)	20 (2)	24	28
	VT型不明	6	3	5 (2)
O26		19	13	12
O103		1	1	2
O111		12	2	
O128			2	
O126			1	
O165		3	1	
O121		2		
O91		1		
不明		5 (1)	5 (2)	4 (3)
報告数総計		132 (6)	98 (2)	83 (5)
[うち有症者数]		[102]	[77]	[56]

( )内は溶血性尿毒症症候群(HUS)発症者再掲

病原体検出情報 2016年疾患別ウイルス検出速報 (2016年8月15日現在)

	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	脳炎・脳症	*インフルエンザ	**麻疹・風疹
患者数	200	15	46	16	12	26	10	319	4(9)
CV-A4	-	-	3	-	-	-	-	-	-
CV-A6	-	1	-	-	-	-	-	-	-
CV-A9	-	-	-	-	-	-	-	1	-
CV-B1	-	-	2	-	-	-	-	-	-
CV-B3	4	-	1	-	-	4	1	2	-
CV-B5	2	-	1	-	-	4	-	-	-
E-6	-	-	-	-	-	1	-	-	-
FluAH1pdm	-	-	-	-	-	-	1	93	(2)
FluAH3	-	-	-	-	-	-	-	10	-
FluB(Vic)	-	-	-	-	-	-	-	51	-
FluB(山形)	-	-	-	-	-	-	1	99	(1)
MuV	-	-	-	-	-	1	-	-	-
RUBV	-	-	-	-	-	-	-	-	1(2)
Rota A G1	2	-	-	-	-	-	-	-	-
Rota A G2	23	-	-	-	-	-	1	-	-
Rota A G3	4	-	-	-	-	-	-	-	-
Rota A G9	4	-	-	-	-	-	-	-	-
NV GI	5	-	-	-	-	-	-	-	-
NV GII	92	-	-	-	-	2	3	-	-
AstV	12	-	-	-	-	-	-	-	-
Ad-1	2	-	-	-	-	-	-	-	-
Ad-2	2	-	-	3	-	1	-	1	-
Ad-3	5	-	-	5	-	-	-	-	-
Ad-4	3	-	-	-	-	-	-	-	-
Ad-5	3	-	-	-	-	-	-	-	-
Ad-8	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Ad-19	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Ad-41	8	-	-	-	-	-	-	-	-
B19V	-	-	-	-	-	-	-	-	(1)
検査中	29	12	31	7	1	5	0	3	1(0)
陰性	36	2	8	1	9	11	4	59	2(3)

\*インフルエンザは2015/2016シーズンの結果

\*\*麻疹・風疹の( )内は病原体定点医療機関外からの患者数の別掲

略: ウイルス名

Ad: アデノウイルス、AstV: アストロウイルス、B19V: ヒトパルボウイルスB19、

CV: コクサッキーウイルス(Cox.)、E: エコーウイルス、FluAH1pdm: インフルエンザウイルスAH1pdm2009、

FluAH3: A香港型インフルエンザウイルス、FluB(Vic): B型インフルエンザウイルス(ビクトリア系統)、

FluB(山形): 同(山形系統)、MuV: ムンプスウイルス、NV: ノロウイルス、Rota A: ロタウイルスA、

RUBV: 風疹ウイルス

定点医療機関コメント（名古屋市除く）

尾張西部地区

おたふくかぜの小流行あり。 10歳女 カンピロバクター  
【稲沢市 こどものお医者さんおがわクリニック】 【清須市 丹羽医院】  
手足口病多し、CA6 によるとみられる。皮疹  
の強い例あり。  
ヘルパンギーナも多し。  
【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

尾張東部地区

ヘルパンギーナ流行持続 肺炎が非常に多くみられます。  
手足口病は少ないです。 【小牧市 志水こどもクリニック】  
流行性耳下腺炎、伝染性紅斑少し目立ちました。 感染性胃腸炎散発  
【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】 【南知多町 医療法人大岩医院】  
高熱の方が多かったです。 4歳女 マイコプラズマ  
【日進市 みやがわクリニック】 8歳男 サルモネラO4(+)  
ムンプスはまだ多いです。 4歳男 マイコプラズマ  
ヘルパンギーナが増えています。 1歳女 RSウイルス  
【春日井市 春日井市民病院】 【大府市 まえはらこどもクリニック】  
8歳男 サルモネラO8  
溶連菌、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ少々  
【春日井市 朝宮こどもクリニック】

西三河地区

マイコプラズマ核酸 10歳男 1歳女 サルモネラO4  
【豊田市 すくすくこどもクリニック】 【岡崎市 にいのみ小児科】  
マイコプラズマ肺炎 9歳男 7歳男 マイコプラズマ気管支炎  
特に目立った流行はありませんでした。 【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】  
【岡崎市 花田こどもクリニック】

東三河地区

7歳男 12歳男 サルモネラ腸炎O4 ヒトメタニューモウイルス感染症 2歳男  
A保育園で咽頭結膜熱流行中 サルモネラO4 2歳女  
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】 病原性大腸菌O1 7歳男  
咽頭結膜熱 1名 8歳男 【豊川市 ささき小児科】  
【豊橋市 富安眼科】 カポジ水痘様発疹症 1名  
サルモネラO9 4歳男 1名  
【蒲郡市 畑川クリニック】

全数把握感染症発生状況（愛知県全体・保健所受理週別）2016年8月17日現在

一～三類感染症

<関連リンク> 届出基準 <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedekijun160215.pdf>

結核（二類感染症）

報告保健所	2016年32週報告数			2016年総計(1～32週)		
	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲
名古屋市(16保健所合計)	9	2		438	113	110
豊田市				43	11	11
豊橋市	3		2	46	9	15
岡崎市	1		1	37	13	10
一宮	1			88	30	18
瀬戸	1	1		73	15	23
半田	2	1	1	41	10	19
春日井	1			74	14	21
豊川	3	1	1	29	9	7
津島	2		1	68	10	28
西尾				17	4	3
江南	1			28	6	2
新城				6	3	2
知多	2		1	51	13	17
清須	2	1		23	12	1
衣浦東部	2		1	71	9	15
合計	30	6	8	1,133	281	302

腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	名古屋市	7歳	女	8/2	8/3	8/8	O157、VT1(+) VT2(+)
2	名古屋市	9歳	女	8/2	8/5	8/10	O157、VT1(+)
3	豊橋市	32歳	男	7/25	7/31	8/12	O157、HUS発症例
4	岡崎市	20歳	男	-/-	8/12	8/12	O157、VT1(+) VT2(+) 無症状病原体保有者
5	知多	19歳	男	7/18	7/22	8/5	HUS発症例
6	知多	29歳	女	7/26	7/29	8/5	O157、VT1(+) VT2(+)
7	衣浦東部	22歳	男	8/1	8/4	8/8	O157、VT型不明

四類・五類感染症（全数把握）（推定感染経路、推定感染地域は確定も含む）

E型肝炎（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染地域
1	名古屋市	43歳	男	国内

チクングニア熱（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染地域
1	瀬戸	32歳	女	フィリピン

レジオネラ症（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域
1	津島	73歳	男	肺炎型	国内

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染経路	推定感染地域	90日以内の海外渡航歴
1	名古屋市	32歳	男	手術部位感染	国内	無

急性脳炎（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域
1	名古屋市	0歳	女	病原体不明	国内

梅毒（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	40歳	男	早期顕症	不明	国内
2	名古屋市	22歳	男	早期顕症	性的接触	国内
3	名古屋市	58歳	男	無症候	性的接触	国内
4	名古屋市	23歳	女	無症候	性的接触	国内
5	豊田市	21歳	女	早期顕症	性的接触	国内
6	豊田市	23歳	男	早期顕症	性的接触	国内

## 7月の一～五類感染症(全数把握対象)発生状況〔( )は無症状病原体保有者再掲〕

2015～2016年に報告のあった 疾病名及び病型 ( )内は全数把握対象疾病数	2016年7月			2016年	2015年
	愛知県 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県全体	累計 <愛知県全体>	総計 <愛知県全体>
一類 (7) 発生報告なし	0	0	0	0	0
二類 (7) 結核	106 (24)	39 (12)	145 (36)	1,065 (286)	1,683 (463)
三類 (5) 細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌感染症 腸チフス	0 (0)	1 (0)	1 (0)	5 (1)	6 (1)
	17 (3)	7 (1)	24 (4)	64 (20)	98 (21)
	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)
四類 (44) E型肝炎 A型肝炎 コクシジオイデス症 ジカウイルス感染症* チクングニア熱 つつが虫病 デング熱 日本紅斑熱 マラリア ライム病 レジオネラ症	0	0	0	2	8
	0	0	0	3	10
	0	0	0	0	1
	0	0	0	2	-
	1	0	1	1	0
	0	0	0	0	2
	3	2	5	12	17
	0	0	0	1	0
	0	0	0	0	2
	0	0	0	0	1
	4	2	6	46	99
	五類 (22) アメーバ赤痢 ウイルス性肝炎 内訳 B型 その他 カルバペネム耐性 腸内細菌科細菌感染症 急性脳炎 クリプトスポリジウム症 クロイツフェルト・ヤコブ病 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 後天性免疫不全症候群 内訳 無症候性キャリア AIDS その他 ジアルジア症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 侵襲性髄膜炎菌感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 水痘(入院例に限る。) 梅毒 内訳 無症候 早期顕症 晩期顕症 先天梅毒 播種性クリプトコックス症 破傷風 風しん 薬剤耐性 アシネトバクター感染症	1	3	4	42
0		1	1	4	15
0		1	1	3	10
0		0	0	1	5
5		1	6	38	80
1		3	4	28	27
0		0	0	0	1
0		1	1	7	8
1		0	1	14	16
0		1	1	50	107
0		1	1	37	60
0		0	0	11	43
0		0	0	2	4
0		0	0	1	4
0		1	1	16	15
0		0	0	2	0
6		2	8	93	161
1		0	1	7	17
11		14	25	140	122
0		4	4	38	43
10		10	20	96	71
1		0	1	6	7
0		0	0	0	1
0		1	1	6	10
0		1	1	3	8
3		1	4	18	13
0		0	0	1	0
総計	160	81	241	1,673	2,599

\* 2016年2月15日に「ジカウイルス感染症」が四類感染症に追加されました。

五類感染症(月報定点把握対象)発生状況

疾病名	2016年7月			2016年累計		2015年総計			
	愛知県 <名古屋市除く>	名古屋市	愛知県 全体	愛知県全体		愛知県全体			
				愛知県全体 合計	愛知県全体 合計	愛知県全体 合計	愛知県全体 合計		
性感染症 定点	性器クラミジア感染症	男	36	53	89	503	873	855	1,501
		女	37	18	55	370	370	646	
	性器ヘルペスウイルス感染症	男	10	14	24	135	369	224	601
		女	13	17	30	234	234	377	
	尖圭コンジローマ	男	12	12	24	126	187	217	328
		女	10	4	14	61	61	111	
淋菌感染症	男	8	31	39	257	302	489	565	
	女	6	2	8	45	45	76		
基幹 定点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		66	12	78	533		1,006	
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		3	2	5	60		92	
	薬剤耐性緑膿菌感染症		0	0	0	0		1	

感染症の類型及び定義(感染症法)

2016年4月1日現在

類型	定義
一類感染症 (7疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症。患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者について入院等の措置を講ずることが必要。
二類感染症* (7疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症。患者及び一部の疑似症患者について入院等の措置を講ずることが必要。
三類感染症 (5疾病)	感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性は高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こしうる感染症。患者及び無症状病原体保有者について就業制限等の措置を講ずることが必要。
四類感染症** (44疾病)	動物、飲食物等の物件を介して人に感染し、国民の健康に影響を与えるおそれがある感染症(人から人への伝染はない。媒介動物の輸入規制、消毒、物件の廃棄等の物的措置が必要。)
五類感染症 (47疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症。
新型インフルエンザ等感染症 (2疾病)	インフルエンザのうち当該感染症に対する免疫を獲得していないことから、生命及び健康に重大な影響を与えるおそれのあるもの。新型インフルエンザ(新たに人から人に伝染する能力を獲得したウイルスによるもの)及び再興型インフルエンザ(かつて世界規模で流行したウイルスによるもの)が平成20年5月12日に指定された。
指定感染症	既知の感染症(一～三類及び新型インフルエンザ等感染症を除く)のうち、一～三類感染症と同程度の危険性を有し、それらに準じた措置を実施しなければ、国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあるもの。一年間に限定した指定。
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既に知られている感染性の疾病とその病状又は治療の結果が明らかに異なるもので、当該疾病にかかった場合の病状の程度が重篤であり、かつ、当該疾病のまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの。

\* 2015年1月21日に「中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)」及び「鳥インフルエンザ(H7N9)」が二類感染症に追加されました。

\*\* 2016年2月15日に「ジカウイルス感染症」が四類感染症に追加されました。





